

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4693232号  
(P4693232)

(45) 発行日 平成23年6月1日(2011.6.1)

(24) 登録日 平成23年3月4日(2011.3.4)

(51) Int.Cl.

F 1

**B 6 5 D 85/50 (2006.01)**

B 6 5 D 85/50 N

**B 6 5 D 1/22 (2006.01)**

B 6 5 D 1/22

**B 6 5 D 21/02 (2006.01)**

B 6 5 D 21/02 A

**B 6 5 D 81/26 (2006.01)**

B 6 5 D 81/26 F

**B 6 5 D 81/38 (2006.01)**

B 6 5 D 81/38 B

請求項の数 2 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-366670 (P2000-366670)  
 (22) 出願日 平成12年12月1日(2000.12.1)  
 (65) 公開番号 特開2002-173190 (P2002-173190A)  
 (43) 公開日 平成14年6月18日(2002.6.18)  
 審査請求日 平成19年11月30日(2007.11.30)

(73) 特許権者 593025619  
 トーヨー工業株式会社  
 大阪府大阪市中央区南本町2-2-9 辰  
 野南本町ビル9F  
 (73) 特許権者 598024950  
 富士包装株式会社  
 大阪府枚方市堂山東町5番7号  
 (74) 代理人 100101340  
 弁理士 丸山 英一  
 (72) 発明者 根垣 一八  
 大阪府大阪市平野区加美南四丁目3番26  
 号 トーヨー工業株式会社内  
 (72) 発明者 松井 雄市郎  
 大阪府枚方市堂山東町5-7

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 発泡合成樹脂製包装容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

発泡合成樹脂からなる包装容器において、包装容器の底板に、側壁に隣接して上下方向の液排出孔が形成されると共に、底板裏面には下部の包装容器に嵌合する位置に部分的に下方に突出する突起を形成してなり、

前記液排出孔が側壁に隣接して下方に向かって穿設され、その中間部で側壁側に屈曲させ、下方に開口せしめることによって断面がクランク型の液排出孔が形成されると共に、該液排出孔に対応する側壁上部には内方が低くなるように切欠部が形成されてなることを特徴とする発泡合成樹脂製包装容器。

【請求項2】

対向する側壁外側の下角部の少なくとも一部を切欠いて差込口を形成してなることを特徴とする請求項1記載の発泡合成樹脂製包装容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、発泡合成樹脂製の包装容器に関し、更に詳しくは、断熱性、保冷性に優れると共に汚染がなく、衛生的な発泡合成樹脂製の包装容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、発泡合成樹脂製容器は、軽量で、衛生的で、断熱性に優れていることから冷凍、あ

るいは冷蔵を必要とする魚介類等の生鮮食品の包装容器として広く使用されている。

【 0 0 0 3 】

発泡合成樹脂製包装容器は、発泡スチレン等の発泡合成樹脂が箱状に成形され、強度あるいは断熱性を確保するために肉厚の壁体の容器とされ、生鮮食品を氷等の冷却材と共に収容して、輸送、保存に使用されている。

【 0 0 0 4 】

かかる発泡合成樹脂製包装容器においては、氷の融解によって生じた液体が函体内部に溜まると収容物が函体内部で移動し易くなり移送中の傷みが大きくなると共に、手で持ち上げる際に重心が移動するため取り扱いが難しくなる。また、魚介類から浸出した血液等の液汁が内容物表面に付着して新鮮さを損なう問題がある。

10

【 0 0 0 5 】

このため、氷の融解等によって生じた液体は速やかに排出するように函体底部に液排出用の孔を穿設する必要がある。しかし、液排出用の孔を函体底板に設けるときは上段の排出液が下段函体の収容物に接触し、下段函体の収容物を汚すおそれが生じる。特に鮮魚等においては上段の排出液に血液等の液汁が解けこむため、かかる液が下段函体の収容物に付着すると外観を損ない商品価値を低下する問題がある。

【 0 0 0 6 】

従って、氷の融解等によって生じた液体は、函体の外部に排出するようにすることが必要で、従来、魚箱等の発泡合成樹脂製包装容器は、図 5 に示すように、収容函体 1 の側壁 20 と底板 21 の連結部に隣接して底板に凹嵌部 22 を設け、該凹嵌部 22 を外気に連通せしめることが行われている。しかし、外気に連通する開口を設けたときは矢印 A で示すように外の風が函体内を通り抜けるために保冷効果が大きく低下する問題がある。

20

【 0 0 0 7 】

このため、氷等の融解によって生じた液体は、下段の函体を通して下方に排出することが好ましいが、この場合、上段の排出液が下段の魚介類に接触しないように排出することが必要となる。

【 0 0 0 8 】

また、発泡スチレン等の函体は、持ち上げる際に手あるいはフォークリフト等を差し入れることが難しく取扱い難い問題があった。

【 0 0 0 9 】

本発明は、外気による保冷効果の低下がなく、断熱性、保冷性に優れると共に汚染がなく、衛生的な発泡合成樹脂製の包装容器を提供するものである。

30

【 0 0 1 0 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、発泡合成樹脂からなる包装容器において、包装容器の底板に、側壁に隣接して上下方向の液排出孔が形成されると共に、底板裏面には下部の包装容器に嵌合する位置に部分的に下方に突出する突起を形成してなり、

前記液排出孔が側壁に隣接して下方に向かって穿設され、その中間部で側壁側に屈曲させ、下方に開口せしめることによって断面がクランク型の液排出孔が形成されると共に、該液排出孔に対応する側壁上部には内方が低くなるように切欠部が形成されてなることを特徴とする発泡合成樹脂製包装容器を提供するものである。

40

【 0 0 1 1 】

また本発明は、対向する側壁外側の下角部の少なくとも一部を切欠いて差込口を形成してなる上記の発泡合成樹脂製包装容器を提供するものである。

【 0 0 1 2 】

【発明の実施の形態】

本発明の発泡合成樹脂製包装容器は、肉厚の合成樹脂発泡体で形成される。発泡合成樹脂製包装容器を形成する合成樹脂としては、発泡ポリスチレン、発泡ポリエチレン、発泡ポリプロピレン、硬質発泡ウレタン樹脂等を用いることができる。中でも発泡ポリスチレンが好ましい。

50

## 【 0 0 1 3 】

包装容器 1 は、図 1 に示すように、肉厚の側壁 3 および底板 4 によって箱状に形成された収容函体 2 を有する。収容函体 2 は数段積み重ねられて最上段には、図 3 に示すように、収容函体 2 に結合する形状に形成された蓋体 5 によって蓋される。

## 【 0 0 1 4 】

函体 2 の肉厚は、特に制約はなく目的に応じて選定されるが、肉厚が 5 m m、好ましくは 1 0 m m 以上の肉厚とされるのが一般的である。

## 【 0 0 1 5 】

本発明収容函体 2 の底板 4 の側壁 3 に隣接する位置には、液排出孔 6、6、が上下に貫通するように穿設される。

10

## 【 0 0 1 6 】

この場合、特に制約するものではないが、図 4 に示すように、底板 4 に下方に向かって延びる液排出孔 6 を穿設して、中間部で側壁側に屈曲せしめてさらに下方に開口するように穿設することによって断面がクランク型とすることが望ましい。断面をクランク型とすることによって上段の液排出孔 6 は下段の収容函体 2 の側壁 3 の上部に開口することとなり、上段から排出される液体は下段の収容函体 2 の側壁を伝わって下方に排出され下段の魚介類等を汚染することを避けることができる。

## 【 0 0 1 7 】

液排出口 6 の数は特に制限はなく、適宜形成されるが、一般的には 2 から 8 個程度を分散して穿設される。

20

## 【 0 0 1 8 】

また、液排出孔 6 が形成された側壁の対応位置の側壁 3 の上部、すなわち液排出孔 6 の真上には、側壁 3 上縁に内方が低くなるように切欠部 7、7 が設けられる。切欠部 7 の形状は、外方は切欠がなく側壁 3 上縁が平坦となるようにし、側壁 3 の内方を切欠いて上段から流れ出た排水を側壁 3 の内面を伝わって下方に排出するようにされる。

## 【 0 0 1 9 】

また、収容函体 2 は、上下に積み重ねて移送する際に横ずれを防止して安定にするために、あるいは後述するようにホークリストを指し込み易くするために底板 4 の裏面に部分的に下方に突出する突起 8、8 が形成される。

## 【 0 0 2 0 】

30

さらに本発明収容函体 2 の側壁外側の下角部には、その少なくとも一部を切欠いて差込口 1 0 が形成される。差込口 1 0 は、側壁外側の下角部を切欠くことによって形成され、その形状は目的に応じて任意に選定可能であるが、一般には、断面円曲状に形成されてアール状とされる。

## 【 0 0 2 1 】

また、本発明包装容器 1 においては、必要に応じて、最下段には、液排出孔 6 をなくした液受函体 1 2 を配設することができる。

## 【 0 0 2 2 】

本発明包装容器 1 は、収容函体 2 に魚介類等を入れ、数段積み重ねて輸送する場合、上段の収容函体 2 内の氷等が融解して生じた液は液排出孔 6 を介して下段の収容函体 2 の側壁 3 に誘導され、排出液は下段の収容函体 2 の側壁 3 内面を伝わって下方に排出される。

40

## 【 0 0 2 3 】

本発明の発泡合成樹脂製包装容器 1 は、魚介類、野菜等の生鮮食料品等の保存移送に使用することができ、特に氷と共に収容して保冷する場合、あるいは液汁の発生するおそれのある生鮮食品の保存移送に適する。

## 【 0 0 2 4 】

また、最下段には、収容函体 2 と同形で液排出孔 6 のみをなくした液受函体 1 2 を配設することによって液が外部に漏れて臭いを残ることを防止することができる。

## 【 0 0 2 5 】

## 【 発明の効果 】

50

本発明はかかる構成からなるから、断熱性、保冷性に優れると共に汚染がなく、衛生的な発泡合成樹脂製の包装容器となる。

【 0 0 2 6 】

また、収容函体内に発生した液体は速やかに収容函体の外部に排出され、排出された液体は下段の収容函体の側壁内面を伝わって排出されるから、下段の収容物を汚すことがない。

【 0 0 2 7 】

さらに、収容函体の底板の裏面に部分的に下方に突出する突起を形成すると共に、側壁外側の下角部に一部を切欠いた差込口が形成されているから、包装容器を持ち上げる際、指あるいはホークリフトの爪の差し入れが容易である。

10

【 0 0 2 8 】

さらにまた、本発明発泡合成樹脂製包装容器は、外部空気が通り抜けることがないから、外部の風によって保冷効果が阻害されることがなく、また、最下段に液排出孔をなくした液受函体を配設すれば排出液は液受函体に貯留されて移送されるから、周囲に臭いが残る問題も解消することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明発泡合成樹脂製包装容器の実施例を示す斜視図

【図 2】図 1 包装容器の底板裏面を示す斜視図

【図 3】包装容器の使用状態を示す斜視図

【図 4】液排出孔を示す部分縦断面図

20

【図 5】従来の包装容器の例を示す部分縦断面図

【符号の説明】

1：発泡合成樹脂製包装容器

2：包装函体

3：側壁

4：底板

5：蓋体

6：液排出孔

7：切欠部

8：突起

30

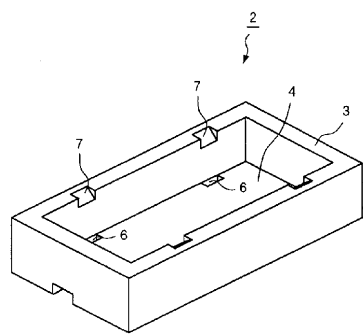
10：差込口

12：液受函体

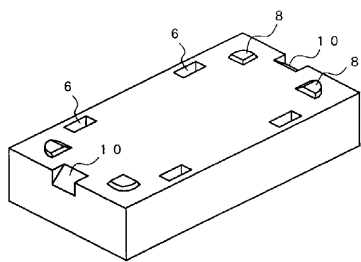
20：側壁

21：底板

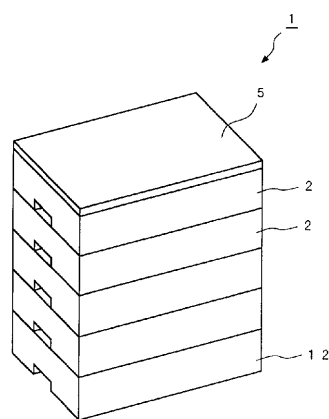
【図 1】



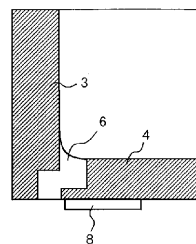
【図 2】



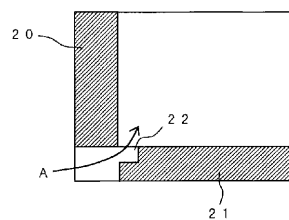
【図 3】



【図 4】



【図 5】



---

フロントページの続き

審査官 種子島 貴裕

(56)参考文献 実開昭50-045300(JP,U)  
実開昭52-086699(JP,U)  
実開昭52-098800(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 85/50

B65D 1/22

B65D 21/02

B65D 81/26

B65D 81/38